

説教題：「**キリストの恵み**」

聖書箇所：エフェソの信徒への手紙4章1-16節（355頁）

説教者：秀島行雄牧師 招詞：讚美歌93 - 1 - 52 交読詩編：詩編119編17 - 24節（132頁）

讚美歌：83/57（ガリラヤの風かおる丘で）/405（すべての人に）/78（わが主よ、ここに集い）/
27

「今週の聖句」〔…わたしたち一人一人にキリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられています。〕（エペソ書4：7）

「牧師室の窓」 「うやむやに始めて終わりし戦争の解明されず八十年経つ」

「広島市長崎の声絶えせじな命の尊さただただ伝えむ」

(1)皆様おはようございます。本日は皆様と共にエフェソの信徒への手紙第4章の前半を読んで参ります。エフェソ書は全部で6章まであり、3章まで読み終えて、4章に入ります。1章から3章までの手紙の内容を受けて、この第4章からはクリスチャンがこの世の中でどの様に生きるべきかをその具体的な手法についてパウロは話し始めようとしています。

4章1節を見てみましょう。「そこで、…わたしはあなたがたに勧めます」と始まっているのです。私たちはしっかりと受け止めなくてはなりません。パウロは自分自身のことを「主に結ばれて囚人となっているわたし」と呼んでいます。「囚人」（しゅうじん）という言葉は旧約聖書には僅かに2回のみ使われています。その2回とは、創世記39章です。エジプトでヨセフが無実の罪により、監獄に入れられた時のことです。困難を乗り越えて、ヨセフはエジプト王国の首相になります。エジプトの国土を襲った災害による食物・小麦の飢饉への対応は、お米不足で値段が大幅に値上がりした今年の日本の状況に何がしかの示唆・ヒントを与えてくれることでしょう。

「囚人」という言葉は新約聖書でも使用頻度は少ないのです。ましてや、「主に結ばれて囚人となっているわたし」或いは「（エペソ書3:1）キリスト・イエスの囚人」という使われ方は新約聖書では僅かに5回のみです。この場合の「囚人」とは、イエス・キリストに生涯を捧げ、生活の基準にすると理解すると分かり易いでしょう。

(2)1節には「神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み」と勧められています。「ふさわしく」とはどう言う意味でしょうか。「同等の価値がある、心に適っている」と言って良いでしょう。2節3節には、主に結ばれた私たちがこの世の中でどの様に生活するべきかが書かれています。〔(4:2)一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、(4:3)平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。〕皆様、如何でしょうか。注意すべきはこの手紙は約2千年前に書かれています。私は就職してから40数年間職場生活をしてきましたが、仕事では胃がキリキリと痛むことの連続でした。その様な日々はこの聖句は、心を落ち着かせる良い薬でした。まことにこの世の中で生きて行くには最も効果的な薬、精神安定剤でありました。何故でしょうか。この聖句の一言一言が心の中に沁み通るからです。2節には「寛容の心を持ちなさい」、3節には「一致を保つように努めなさい」と語り掛けているからです。つまり、自分の殻に閉じ籠もるのではなく、主なる神との対話が精神の安定をもたらすのです。3節にある「平和のきずなで結ばれて」とは、キリストとの対話です。4節には「一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです」と書かれています。「希望」と言うのは、形もなければ、実態もなく、何色なのかも分からず説明することが難しいです。私は今回の大病で胃の半分を摘出しましたが、僅かながらも希望の大切さを体験してきました。昼となく真夜中となく、多くの看護師さんたちに励まされ、加えて、次の時代を担う看護学校の学生たちの実習対象になり、また、手術の医師の方々からの激励を受けてきました。「希望」とは、揺り籠の中で

育まれるのではなく、厳しい現実の中で育てられていくことを改めて感じました。打ち明け話をすれば、小水の管が外れ、点滴での栄養の補給時に、昼夜を問わず2時間おきに小水トイレに行かざるを得ません。手術の痛みが強く、ベットから起き上がるのも苦痛でした。その苦痛の中で、自暴自棄になるのはやむを得ないと思ってしまいました。

(3)でも、今日の聖書箇所4節には〔(4:4)…あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれている…〕と書かれています。パウロがいた2千年前のエフェソの町はローマ帝国の中でも大きな都市でした。地中海に面した港町であり、古代東西往来やペルシャ、ローマとの中継地点として物資が往来する商業の町であり、豊穡の女神アルテミスを祭る神殿がありました。物質的な金銭的な繁栄を求めて人生を過ごしている人々の中に、イエスの名による悔い改めの洗礼が、パウロによって行われたのです。神は人を分け隔てせず、豊かな恵みをお与えになり、キリストの名による洗礼によって人は救われる。パウロの宣教チームの働きによって、エフェソの人々にキリスト教は伝えられていきました。キリスト教信仰のポイントが5節6節に書かれています。見てみましょう。

〔(4:5)主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、(4:6)すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを通して働き、すべてのものの中におられます。〕よくご覧ください。4節～6節までの聖句に「一つ、一人、唯一」と言う言葉が7回も出てきています。何故でしょうか。それは、惑わされるな、事柄の本質はただ一つであると語り掛けているのです。「洗礼は一つ」と書かれています。後程、聖餐式を行ないます。聖餐のパンとぶどう酒(ぶどうジュース)は、洗礼の恵みとして受け、感謝していただきます。その洗礼がキリストの名による洗礼であれば、プロテスタント教会であっても、カトリック教会であっても、正教会であっても、いずれの教会であっても「洗礼は一つ」でありますので、この教会で聖餐を受けることが可能であります。洗礼の本質とは1節に記されている様に「神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩」むことを決意して、口で言い表すことの証しであります。洗礼によって、私たちはこの世の中に生きていても、イエス・キリストに招かれたものとして、この世の中とは異なる価値観が与えられ、人生を豊かに過ごすことができるのです。

6節に「神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを通して働き、すべてのものの中におられます」と書かれています。「すべてのものの中におられます」と言うのは、あなたの中にも、私の中にも、洩れなく、すべての人の中にと言う意味です。嬉しいですね。

(4) 続いて7節をご覧ください。〔(4:7)しかし、わたしたち一人一人に、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられています〕ここには、「わたしたち一人一人に…恵みが与えられて」いると書かれています。「恵み」とはギリシャ語で $\chi \alpha \rho \iota \varsigma$ (カリス)、英語で grace と言います。それがどの様に与えられるのが記されています。「キリストの賜物のはかりに従って」と書かれています。「キリストの賜物のはかり」とは何でありましょうか。それは一人一人それぞれに異なるのです。従って、自分自身で分かることはできません。私たちの人生とは「キリストの賜物のはかり」を尋ね求める旅と言うことも出来るのでしょうか。いいえそうではありません。私たちの人生とは「神の恵みが与えられて」いることを確信して、神のために、隣り人のために生きることにあると言えるでしょう。

そのことを12節以下で確認してみましょう。

12節には「聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ」、

13節「キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長する」、

14節「わたしたちは、もはや未熟な者ではなくなり」、

15節「キリストに向かって成長していきます」、

16節「愛によって造り上げられてゆく」とステップ感を持って、この世の中での生きる過程を示しています。私たちはキリストと共に生きていくことが保証されているのです。

皆様は保証と言う意味をご存じと思いますが、私は職業上、保証人制度や保証人の義務についての実務を行なってきました。今回の私の手術入院中に看護学校の学生のために私が実習の実習対象になることに同意しました。二人の学生の一人が男性で、社会人を経て看護師を目指しています。彼は大学時代に法律の刑法を学びましたので、保証人制度にも詳しくかったです。彼も私もフランス語の検定資格も持っていましたので話が合いました。

(5)8月の第1主日は日本基督教団の行事暦「平和聖日」です。先週の6日・9日は夫々に広島・長崎での原爆の日、今週の15日は終戦の日になります。広島での平和記念式典では石破茂首相から歌人正田篠枝(ショウダ シノエ)の短歌が詠まれました。

「太き骨は先生ならむ そのそばに小さきあたまの骨 あつまれり」心を打つ歌です。

平和記念公園の近くの記念碑に刻まれています。

私の職業人時代の仲間に〇〇君がいました。行動力・判断力・思いやりのある若者でした。彼は広島の出身で、親族が原爆で命を落としました。彼はその後NYに転勤となり活躍していました。NYでの同時多発テロ事件で亡くなりました。現地従業員の命を優先し、日本人職員共々に退避の途中で亡くなりました。この事件の後に、アフガニスタンで20年間の戦争となり、2022年にはウクライナでの戦争が、2023年には中東ガザでの戦争が起きています。戦争を止めさせるためには、平和への声を出さねばなりません。併し、声だけではなく、戦争と平和を学び、外国語を学び、国際機関に職員を繰り出してこそ平和実現への第一歩となります。日本のキリスト教会は、見ざる、言わざる、聞かざる、であってはなりません。「『世の光』『地の塩』である教会は、『見張り』の使命をないがしろに（日本基督教団戦争責任告白）」してはならないのです。その主なる神からの責務に一人ひとりが誠実に対処しなければなりません。今日の聖書箇所7節〔(4:7)…わたしたち一人一人に、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられてい〕ることの感謝として、「平和」を大切にしたいと思います。

・・・お祈りします。

イエス・キリストの主なる神様。私たちは、平和聖日の8月を迎えています。長い年月が戦争のために費やされアジア・太平洋各地が戦場となり、現地の人々の、日本人の夥しい人命が失われました。日本の国内も戦場となり、戦災により、原子爆弾により、多くの命が絶たれました。その戦争終結から80年を経た今日、地球の各地で戦争が起きており、悲しい状況が続いています。神が創造されましたこの地球上に生きる一人一人に平安・平和と希望が与えられますように。食べ物が乏しい人々に、災害や戦争の只中にある一人一人に慰めがありますように、お守りください。私たちに知恵と勇気をお与え下さい。

教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している、働いている一人ひとりに、主なる神の御恵みと平安がありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン